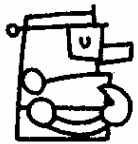


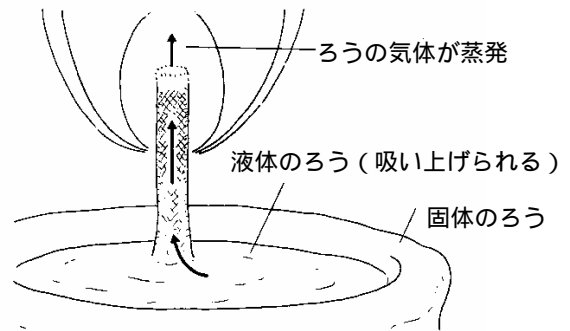
## ろうそくのろうが、しんの糸を伝わって上るのはなぜ



ろうがとけて液体になっていて、しんの上部で蒸発じょうはつしていきため、ろうが引っぱり上げられるのさ。

ろうそくのしんは、糸をたばねたようなものでできています。この先に火をつけると、しんにしみていたろうが、熱でとけて液体になり、先のほうでは気体になります。しんから飛び出したろうの気体は、熱で分解され、ほのおをあげて燃え、そのとき、空気中の酸素と急激きゅうげきに結びついて、二酸化炭素や水蒸気ができます。

ろうそくが燃えている間は、しんの先から、ろうが気体になって空気中に出ていくため、下のほうの液体のろうが、次々と吸い上げられていきます。それで、ろうが糸を伝わって、上るように見えます。



<ろうそくのろうの変化>

### ろうは、50～80 ぐらいで、固体 液体 固体の変化をする

しんの根もと近くのろうは、ほのおの熱で液体になり、一部は、しんに吸い上げられていきます。一部は、ほのおから遠くてとけずに残っている固体のろうのふちからあふれて、ろうそくのわきを伝わって流れ落ちます。とちゅうで、冷えて液体から固体のろうに変わり、ろうそくの側面に、しずくの形でくっつきます。

ろうの種類によってちがってきますが、ろうそくは、50～80 ぐらいの熱湯につけるととけて液体になり、ちょっと湯の温度が下がると、水面にろうのうすいまくができてきます。

もっと知りたい人へ：「ろうそくは燃えるのに、なぜろうに火がつかないの」も見てみよう。